

# 第23号 すいかずら

JAPAN ASSOCIATION FOR  
HISTORICAL ART  
AND ARCHITECTURE  
(CONSERVATION OF CULTURAL ARTIFACTS)

平成26年3月発行  
編集：社寺建造物美術協議会  
発行人：荒木かおり

〒616-8242  
京都市右京区鳴滝本町69-2  
南川面美術研究所内  
Tel:075-464-0725 Fax:075-464-0099

## 「社寺建造物美術協議会としての蓄積と今後の展開」

技術顧問 窪寺 茂 先生「建築装飾技術史研究所 所長」



明治三〇年（一九八七）

の「古社寺保存法」以来継続しているわが国の文化財建造物の保存修理は、「修理技術者」と呼ばれる建造物修理の専門家や、「各工種の技能者」により実質的に実行されてきているといふことは言うまでもない。この保存修理事業は、日本の歴史の遺産を将来にわたり伝えることを目的としている。同時に、歴史的技術の伝承なども果たそうとしている。いわば、過去の歴史文化を将来に伝える壮大な文化活動の実践と言つて良い。

ところで、現存している歴史的建築は、過去の修理により今日あるということを私が知ったのは、今から40年ほど前のことであつた。このことが私を建造物修理の世界に進ませた。そして、社美協の方々が実施している装飾性豊かな建築の保存修理に携わることになったのは、すでに30年ほど前。以来、修理のあるべき姿とはどのようなものであるのかといったことや、歴史的な装飾技術の全体像などを追いかけて来た。

建築を修理すること自体は特段難しいことではないといふのが私の持論であるが、これが文化財建造物となるとそう簡単には行かなくなる。文化財修理には幾つかの約束事や、心掛けなければならぬ事柄があるからである。つま

り、文化財修理では、その建築が持つ歴史的、文化的価値を損なうことのない修理が求められ、このことにより、保存修理は一般の修理レベルと一線を画される。

歴史的、文化的価値を保持する修理とは、「ものそのもの」と「当該建築の特性」を尊重し、可能な限りこれを維持する修理を意味しており、このことを実践することの困難さは、修理の実践者すべてが自覚しているはずである。

また、「本物を目指した修理」を行うことを私たちは求められている。この実践もそう容易くはない。たとえば、「漆塗」や「彩色」「金工」は、古代以来営々と伝承されている。いわば「伝統的な施工技術」であるものの、その実体がそのまま今日まで伝承されているかと言つと、そうでもない。歴史的な技術は、時代による変化があると考えたほうが賢明であり、本物による修理を実践するには、幾つかの課題が立ちほだかつてくる。

とはいえ、社美協の方々が保持している施工技術は、先人が行つてきた修理技術の蓄積のうえに立っている。この技術をこれからどのように展開して行くかということとは、過去における歴史的な技術全体を見据えながら行うべき、社美協に託された課題の一つと言える。

本誌第22号で、江面嗣人氏が「社美協へ期待すること」と題した文章を寄せられている。その内容をしっかりと受け留めて進むことが、今後の社美協の発展に繋がるであろうと思われてならない。

「窪寺先生は平成24年度より技術顧問に就任していただいています。」

## 荒木 会長より

社寺建造物美術協議会活動に各方面より御支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度は新しい仲間が増えました。久しぶりに新会員3社、賛助会員2社をお迎えすることになりました。新しい会員と共に、今後の研修、取り組みプロジェクトにフレッシュな意見を取り入れていきたいと思っております。

今年度は、昨年度から活動しています技術継承プロジェクトの取り組みとして技術者の実態調査を行いました。そこでは各社より技術者の年齢男女構成を調べ、技術者後継者問題の有無を明確にし、又各社の事業のうち文化財補助事業の占める割合なども算出いたしました。会員各社様には情報の提供ありがとうございました。

このようなレポートを作る事により、私達も実態がつかめ今後の経営方針の指標ともなる事が見えてきました。

資材検討プロジェクトの取り組みでは漆を取り上げ冊子を作る事までこぎつけました。

22年度より取り組んでおります模型研修もいよいよ26年最終年度を迎えます。各方面より多大なるご協力を得て、ここまでこぎつける事が出来ました。最終年度、無事完成後は多くの方に完成を見ていただきたいと思っております。

26年度も宜しく願います。

## 新会員紹介

### 新 正会員 (3社)

一般社団法人 天野山文化遺産研究所 代表理事 山内 章

事業内容 社寺建造物絵画・装飾彩色・壁画の保存修理、奉納絵馬・杉戸絵等の板絵、能面、仏像彫刻等彩色の保存修理、建造物彩色や板絵等の技法材料・意匠及び保存状況の調査と報告書作成。

有限会社 彩色設計 代表 小野村 勇人

事業内容 文化財及び社寺建造物・美術工芸品の彩色・絵画・仏画などの調査、伝統工法による模写及び復原、保存修理(剥落止め等)、新規制作に関わる設計・企画と施工。

有限会社 島津漆工房 代表取締役 島津 達也

事業内容 文化財建造物の主に塗装に関する調査及び修復・復元事業等。漆塗。単色塗・彩色等。

### 新 賛助会員 (2社)

株式会社 堤淺吉漆店 代表 堤 孝

NPO法人丹波漆 代表理事 岡本 嘉明

## 通常総会報告

第1回通常総会(平成25年5月25日開催)

内容 ・平成25年度事業計画及び予算承認

・新規会員申請に伴う入会承認

・「職人就業状況調査」アンケート実施の主旨説明 他

第2回通常総会(10月25日)

内容 ・新規会員紹介

・「職人就業状況調査」アンケート結果の報告

・漆についての今後の課題について(技術継承PTテーマ) 他



平成25年6月12日 新正会員認定式

# ● 平成25年度 年間事業報告 ●

平成25年	活動 (●は国庫補助事業)	場 所
5月25日	第1回通常総会	於 神奈川県 新横浜グレイスホテル
7月6日～7月7日	文化財修理技術保存連盟 第2回全国研修大会 参加	於 京都府 ホテルルビノ京都堀川
7月7日	漆部門 理事会	於 京都府
7月29日	京都府文化財所有者等連絡協議会 総会 出席	於 京都府 賀茂御祖神社(下鴨神社)参集殿
7月29日～9月4日	●建造物装飾模型製作研修—彩色 V～X期—	於 (有)川面美術研究所
8月20日～8月25日	●後継者養成実技研修	於 (株)小西美術工藝社、(株)片山、(株)さわの道玄
10月24日～10月25日	●建造物装飾修理用資材検討調査研修会 ●会員研修会	於 京都府 福知山市、宮津市
10月25日	第2回通常総会	於 京都府 宮津ロイヤルホテル
10月26日	全国文化財保存技術連合会 総会 出席	於 福島県 会津若松ワシントンホテル
10月26日～10月27日	文化財保存技術2013 ～文化財を支える「伝統の名匠」～展示	於 福島県 会津若松市、鶴ヶ城体育館
11月2日～11月3日	ふるさと文化財の森 『文化財建造物保存活用公開セミナー』 展示	於 京都府 清水寺、 京都市文化財保存技術研修センター
11月18日～11月22日	●建造物装飾模型製作研修 —彩色 XI期—	於 (有)川面美術研究所
11月29日	京都府文化財所有者等連絡協議会研修会 参加	於 京都府 教王護国寺
12月16日	漆に関する保存団体 連絡会議	於 東京都 日本文化財漆協会
<b>平成26年</b>		
1月15日	●建造物装飾模型製作研修 —彩色監修—	於 (有)川面美術研究所
1月17日	文化庁訪問(職人実態調査についての報告)	於 東京都 文化庁

## 平成26年度社寺建造物装飾技術者研修事業計画 (国庫補助事業)

伝承者の養成

### 1、建造物装飾修理用資材検討調査研修会

◇研修期間 平成26年10月(予定)

◇研修内容 中級・上級技術者を対象とし、漆や膠、地金などの建造物装飾修理に欠かせない材料について、部門ごとに講師を招き、その現状や問題点を検討し、改善策を立て、今後の修理に生かす。

### 2、会員研修会

◇研修期間 平成26年10月(予定)

◇研修内容 古社寺を訪ね、伝統建造物に於ける装飾分野の研鑽を深め、日本文化への更なる広い視野を持った人材を養成する。

### 3、後継者養成実技研修会

◇研修期間 平成26年8月(4日～10日間程度で実施)

◇研修内容 各種美術工芸教育機関と連携し、文化財建造物装飾に関心のある後継者を会員各事業所にて受け入れ、仕事の実感を体験してもらうことで、将来の後継者養成に繋げる。

技術技能の練磨

### 4、固有技術向上研修会

○建造物装飾模型製作研修<丹塗り・桐油彩色研修>

◇研修期間 平成26年10月6日(月)～10月22日(水)(予定)

◇研修内容 伝統建造物の模型を作成し、漆塗り・彩色・丹塗り・金具、各部門の装飾施工を行う。各部門、一つの模型を作成することで、技術者の技術・技能の練磨を目指すと同時に、研修生が原因から製作し、建造物装飾技術の研究を行う。製作後の模型は展示会や公共施設等で展示し、建造物装飾の技術や文化建造物保存への理解を広く世に伝える。

### 記録の作成及び刊行

報告書と会報による研修事業の成果報告を行う。また、建造物装飾模型製作研修の実技研修にあたり、装飾技術の会員間での情報共有と伝播・継承を目的とし研修内容を映像記録に残す。

# 「建造物装飾修理用資材検討調査研修会」・「会員研修会」

期 間：期間：平成25年10月24日（木）～10月25日（金）

場 所：NPO 法人丹波漆畑、やくの木と漆の館、成相寺、智恩寺

研修生：片山富夫（株片山）、荒木かおり（有川面美術研究所）、アトキンソン・デービッド（株小西美術工藝社）小野村勇人、小野村直人（有彩色設計）、齋藤敏彦、齋藤和人（有齋藤漆工芸）、澤野道玄、余江岳央（株さわの道玄）、武井祥司、太田洋志（（一財）塩尻・木曾地域地場産業振興センター）、島津亮介（有島津漆工房）、堤 孝、堤 卓也（株堤浅吉漆店）、大森憲志、廣田浩一（（公財）日光社寺文化財保存会）、田鹿秀夫、半田博之、薑 具視（株はせがわ美術工芸）、邑田佳子（邑田漆芸株）、森本安之助（株森本鋳金具製作所）、山崎睦典（株山崎）

平成25年度は、漆に注目し資材検討プロジェクトを立ち上げました。7月漆部門理事会にて話し合いの結果、現状分析の観点で技術者アンケートを取る事にいたしました。技術者から国産、中国産漆の使用感の違い、問題点、これからの期待などを記述していただきました。

結果、国産漆への期待が大きい事、施行期間の問題、経年劣化への悩みなどが読み取れました。この結果に基づき、研修会では、関西の漆産地夜久野町を訪ね漆畑の現状を視察し、経年劣化に関する講演を聴く機会を持ちました。

今年度は講演記録、紫外線劣化促進実験等を盛り込んだ『建造物装飾修理用資材の諸問題』～漆の劣化について』を発行する事といたしました。

研修1日目は「NPO法人丹波漆の、漆畑」「やくの木と漆の館」を視察し、NPO法人丹波漆 理事長の岡本嘉明氏に漆の現況についてご説明頂きました。後、京都市産業技術研究所研究室長の大敷泰氏にご講演いただき、漆関連の従事者が現状の問題点特に経年劣化をはじめとする品質問題・国産と中国産の品質差等について科学的分析のご講演を交えながら討論しました。2日目には宮津市の成相寺、智恩寺を視察しました。



只今、作成中です



## 『建造物装飾修理用資材の諸問題』 ～漆の劣化について～

関係機関や所有者の皆様には、漆塗りに対するさらなる理解と認識を深めていただくのを目的に、工事の概要と漆の屋外劣化の物性をわかりやすく解説したパンフレットを計画しております。今回特に黒塗りの上塗り漆として透漆が素黒目漆に比して耐候性に優れているとの大敷先生よりの提言をもとに、社寺建造物美術協議会として促進耐候性試験を京都市産業技術研究所に現在依頼しており、この結果もパンフレットに掲載いたします。漆の制約された性能の中で、どのような漆を使用しているかを改良するかを広くアピールすることが目的です。今後は、建造物装飾に関わる他ジャンルについても取り上げていく予定です。

## 「後継者養成実技研修会」

期 間：平成25年8月19日（月）～8月23日（金）

場 所：毘沙門堂（京都府京都市）胡宮神社（滋賀県多賀市）、(株)片山、(株)小西美術工藝社、(株)さわの道玄  
研修生：中路祥子（京都伝統工芸大学校）、柴山 匠（ものづくり大学）、谷口 裕（ものづくり大学）

各種美術工芸教育機関と連携し、文化財建造物装飾に関心のある後継者を会員各事業所にて受け入れ、仕事の実感を体験してもらうことで、将来の後継者養成に繋げることを目的としています。今年度は、(株)片山、(株)小西美術工藝社、(株)さわの道玄が受入事業所となり、教育機関からの研修生に仕事の実感を体験してもらいました。



(株)片山では、清水寺と毘沙門堂の修復現場の見学、及び社内での実習を行いました。実習では丹塗り模型を用いて、実際の作業と同じ様に掻き落とし・水拭き・胡粉、鉛丹の塗装材料作り・礬水引き・下塗り・上塗りをしました。  
(株)さわの道玄では、工房内の見学、滋賀県胡宮神社にて剥落止めの実習を行いました。



(株)小西美術工藝社では、鋳金具墨差しの実習作業をしました。初日は、金具仕上り品の梱包作業を通じて金具の取り扱い方、文化財修復の意義を学ぶと共に、墨差し作業のイメージを掴んでもらい、2日目から最終日まで金具墨差し作業を行いました。研修生は作業を重ねる度に技術が上がり、作業初日と最終日とは比較にならない程の進歩が見えました。

## 「建造物装飾模型製作研修」

建造物装飾模型製作研修は、22年度から26年度の5年間をかけて、漆塗り・彩色・丹塗り・金具の4部門で1つの模型を完成させます。各部門の技術を集大成した模型製作を通し、技術者の技術の継承と練磨を目指すと共に、製作後には模型を展示することで、業界の社会の認知度の向上を目指します。今年度は膠彩色部分が完成しました。模型背面小壁には鑱泥下地技法を取り入れました。

### 彩色施工

期 間：平成25年7月29日～9月4日（土日祝除く）、11月18日～22日、平成26年1月15日

場 所：(有)川面美術研究所

監 修：窪寺 茂（建築装飾技術史研究所 所長）

講 師：荒木かおり、中西友紀（(有)川面美術研究所）（彩色）

久安敬三、北山 潤（(有)彩色設計）（鑱泥下地）

研修生：楠本明希、福田寛子（(有)川面美術研究所）

協 力：(株)はせがわ美術工芸、(有)横山金具工房



平成25年度終了時 正面



窪寺氏による監修



鑱泥下地部分 背面

## 日本の技体験フェア

# ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技

期間…平成25年10月26日・27日  
 場所…鶴ヶ城体育館（福島県会津若松市）  
 内容…展示、金具技術体験コーナー  
 担当…(株)小西美術工芸社

「日本の技体験フェア」は昨年度までの「伝統の名匠」展より名称を変え、今年も文化庁主催で開催されました。様々な技を持つ国内の選定保存技術保持団体がそれぞれの技術を展示や実演、体験コーナーを通じて広く一般の方に知っていただくというものです。

当協議会では会の解説、また金具を中心に据えた各部門の説明をパネルや手板、サンプルの展示で紹介しました。また体験コーナーでは水銀鍍金された銅版に好みの型を打つ、「型打ち体験」に参加いただきました。



## ふるさと文化財の森

# 文化財建造物保存活用公開セミナー

期間…平成25年11月2日・3日  
 場所…清水寺境内、京都市文化財建造物保存技術研修センター  
 内容…展示、金箔押し・絵馬彩色の体験コーナー  
 担当…(株)片山 (株)さわの道玄、(有)川面美術研究所

「文化財建造物保存活用公開セミナー」では、森林資材に関わる複数の選定保存技術団体が実演・体験・見学コーナーを設けています。当協議会は、文化財建造物保存技術研修センターにてパネルによる解説や模型・手板、材料・道具を展示し、伝統的な建造物の装飾（丹塗り、漆塗り、彩色）の仕事を紹介しました。また清水寺境内では、縹緗彩色を施した手板を展示した他、体験コーナーを設け、第1日目は絵馬彩色、第2日目は金箔押しを一般参加者に体感していただき、文化財建造物装飾の仕事の一端を感じていただきました。



# 社寺建造物美術協議会 名簿

平成26年3月

No.	企業名 (正会員)	氏名	所在地	電話番号 FAX番号
1	(一社) 天野山文化遺産研究所	山内 章	586-0086 大阪府河内長野市天野町997	0721-55-3772 0721-55-3776
2	(株)大谷相模掾鑄造所	大谷哲秀 (大谷秀一)	537-0011 大阪市東成区東今里2-6-20	06-6971-6571 06-6971-6511
3	(株) 片 山	片山富夫	601-8303 京都市南区吉祥院向田東町10	075-322-1236 075-316-6333
4	(有)川面美術研究所	荒木かおり	616-8242 京都市右京区鳴滝本町69-2	075-464-0725 075-464-0099
5	岸野美術漆工業(株)	岸野 勲	321-1404 栃木県日光市御幸町587-2	0288-53-3366 0288-54-0072
6	(株)小西美術工藝社	デービッド・アトキンソン	108-0014 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3階	03-5765-1481 03-3455-9250
7	(有) 彩色 設 計	小野村勇人	615-8072 京都市西京区桂木ノ下町25-8	075-201-4582 075-201-4582
8	(有) 齋 藤 漆 工 芸	齋藤敏彦	250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-381	0460-84-2802 0460-84-0770
9	(株) さ か い	酒井清裕	520-2331 滋賀県野洲市小篠原7-1	0775-87-1178 0775-87-5355
10	(株) さ わ の 道 玄	澤野道玄	604-8232 京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491	075-254-3885 075-254-3886
11	(一財)塩尻・木曾地域 地場産業振興センター	小口利幸	399-6302 長野県塩尻市木曾平沢2272-7	0264-34-3888 0264-34-2832
12	(有) 島 津 漆 工 房	島津達也	671-1602 兵庫県たつの市揖保川町野田263-1	0829-56-3658 0829-56-3658
13	(株)はせがわ美術工芸	井上貴治 (田鹿秀夫)	822-0011 福岡県直方市大字中泉今林885-26	0949-24-7211 0949-24-7221
14	(株)細川社寺巧藝社	細川夫美子	651-2242 兵庫県神戸市西区井吹台東町1-5-13-301	078-997-7178 078-997-7179
15	邑 田 漆 芸 (株)	邑田正廣	607-8355 京都市山科区西野大鳥井町118-45	075-591-4137 075-502-0638
16	(株)森本鋳金具製作所	森本安之助	600-8321 京都市下京区楊梅通西洞院東入る 八百屋町59	075-351-3772 075-361-8877
17	(有)横山金具工房	横山智明 (横山義雄)	601-8394 京都市南区吉祥院中河原里北町14-3	075-325-4861 075-325-4862
No.	企業名 (賛助会員)	氏名	所在地	電話番号 FAX番号
1	(株)堤 淺 吉 漆 店	堤 孝	600-8098 京都市下京区間之町松原上ル稲荷町540	075-351-6279 075-351-6270
2	ナカガワ胡粉絵具(株)	中川晴雄	611-0013 京都府宇治市菟道池山24番地	0774-23-2266 0774-20-4666
3	NPO 法 人 丹 波 漆	岡本嘉明	629-1302 京都府福知山市夜久野町今西中710番地	090-6244-4363

## 賛助会員紹介 (株)堤淺吉漆店 (京都)

当社は、千数百年の歴史ある京都の街中で悠々と育まれてきた数々の伝統産業分野や国宝、重要文化財の修復分野においてお客様のニーズにお応えする商品をこれ迄数多くご提供してまいりました。

私は伝統的技法に必要な天然漆や漆工材料を厳選し常にお客様に即納できる体制をとっております。又、漆の品質を向上する為に精製技術の研究を進め、新設備を導入し品質の高い漆「光琳」「魁」を開発致しました。伸びがあり、きめが細かく、縮みにくい、塗りやすいといった特性を持ち、高硬度で高耐候性という高い品質を保持しており、大変ご好評を頂いております。

また品質にばらつきのある炭や角粉の代替品として異業種メーカーとの共同研究開発により常に安定した高品質の商品を御提供することを可能にいたしました。

このように株式会社堤淺吉漆店は、常にお客様の声に耳を傾け、お客様に安心して御使用頂き喜んで頂ける本物の商品を企画開発販売し、社会に貢献できるようにその職責を全うしていく所存でございます。

今後共何卒よろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。ご次第でございます。



(本社・工場)

〒600-1809

京都府京都市下京区間之町通松原上る稲荷町540番地

TEL 075-1351-6279  
FAX 075-1351-6270

## 社寺建造物美術協議会

事務局 〒616-8242  
京都市右京区鳴滝本町69-2 (有)川面美術研究所内  
Tel:075-464-0725 Fax:075-464-0099

## 編集後記

台風接近による悪天候のなか、京都夜久野町「漆畑」見学そして講師の方と参加者全員での熱心な討議、有意義な研修でした。また新しく入会された会員会社の方々と、初めての総会での意見交換もできました。これからも新たな課題にむけ、みんなで力を合わせ取り組んでいきます。(Y)